

2015年2月「船橋市立医療センターの建て替え検討のための
基礎調査業務調査結果」より

d. 概算工事費

現地建て替えの概算工事費は約 180 億円となり、450 床規模の新築工事同等の工事費となる。

工事項目	施工面積	施工単価 (㎡単価)	金額	備考
仮設建物建設費	2,000.00m ²	300千円	600,000千円	
既存設備切り回し			10,000千円	
C館解体費	1,385.25m ²	33千円	45,713千円	300千円×1.1 (建設難度考慮)
新B館建設費	14,800.00m ²	528千円	7,814,400千円	480千円×1.1 (建設難度考慮)
(地下階増額分)	9,000.00m ²	10千円	90,000千円	掘削・土壌搬出費
B館解体費	12,259.18m ²	33千円	404,552千円	300千円×1.1 (建設難度考慮)
仮設渡り廊下建設費	1,650.00m ²	200千円	330,000千円	
新A館建設費	13,300.00m ²	528千円	7,022,400千円	480千円×1.1 (建設難度考慮)
(地下階増額分)	9,000.00m ²	10千円	90,000千円	掘削・土壌搬出費
A館解体費	12,908.26m ²	40千円	516,330千円	地下あり
仮設建物解体費	3,650.00m ²	33千円	120,450千円	300千円×1.1 (建設難度考慮)
C館増築棟改修(1, 2階)	900.00m ²	275千円	247,500千円	
E館改修(部分改修)	2,000.00m ²	275千円	550,000千円	
合計			17,841,345千円	

※参考資料：移転新築の場合の概算工事額

工事項目	施工面積	施工単価	金額	備考
新築建物	36,000m ²	480千円	17,280,000千円	450床×80m ²
現病院建物解体	35,790m ²	30千円	1,073,692千円	
合計			18,353,692千円	

e. 現地建て替え計画の検証

現地建て替え案のメリット・デメリットは下記のとおりである。

工事期間中、スタッフには 140m の仮設通路の利用を強いることになり、工事期間についても約 7 年と長期にわたるため、患者及びスタッフへの影響は大きい。

また、工事費についても 450 床の新築工事以上の工事額となるものの、現状の課題を解決した建物とはならない。

	メリット	デメリット
工事期間中	なし	<ul style="list-style-type: none"> 既存 A 館との接続は工事期間中 140m の仮設通路を設置する必要がある。 工事期間が約 7 年に及び患者、スタッフへの影響が大きい。
完成形	<ul style="list-style-type: none"> 既存の C 館及び E 館を利用できる。 現在地のため、船橋市立リハビリテーション病院、看護学校との連携が取りやすい。 現在地建て替えのため、建て替えスケジュールが立てやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存建物がある中での制約上、約 7 年の工期を費やしても、完成建物への制約がある。 放射線部門は分散配置のままである。 新 B 館の病室と既存 E 館との窓先の距離が 6 m 程度しか確保できない。 新築建物以上の工事費が必要となる。

2015年2月「船橋市立医療センターの建て替え検討のための基礎調査業務 調査結果」より

3) 病院建て替え案検討の総括

これまでの調査結果により、既存建物を継続して使用するためには病院機能の停止を有する改修工事が必要であるが、船橋市立医療センターの地域における役割から、機能を停止することはできない。

そのため、現地建て替え計画（立体駐車場敷地含む）により、建物更新の検討を行ったが、下記に示すように工期や動線の問題により、機能面・経済面・患者やスタッフの環境面においても現実的な計画でない結果となった。

今後は、新たな敷地への移転も視野に入れた、船橋市立医療センターの建物更新を検討する必要がある。

	現病院敷地建て替え案	立体駐車場敷地を含めた建て替え案
配置		
想定建築面積	約 12,000 m ²	約 12,000 m ²
想定延床面積	約 36,000 m ²	約 36,000 m ²
想定高さ	36.7m (現状同等)	36.7m (現状同等)
工期	約 7 年	約 7 年
概算工事費	約 178 億円	約 183 億円
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 既存の C 館及び E 館を利用できる。 現在地のため、船橋市立リハビリテーション病院、看護学校との連携が取りやすい。 現在地建て替えのため、建て替えスケジュールが立てやすい。 	同左
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 既存 A 館との接続は工事期間中 140m の仮設通路を設置する必要がある。 工事期間が約 7 年にも及び、患者への影響が大きい。 既存建物がある中での制約上、約 7 年の工期を費やしても、完成建物への制約がある。 放射線部門は分散配置のままである。 新 B 館の病室と既存 E 館との窓先の距離が 6m 程度しか確保できない。 新築建物以上の工事費が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同左に加え、「新病棟の厨房より E 館病棟への動線は水平距離で約 180m の距離となる。 工事着手前に既存の立体駐車場分 (272 台) の駐車スペースの確保が必要となる。 地下階部分は小さくなるが、立体駐車場及び渡り廊下の建設費が増加する。

2023.9.12